

2026年6月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは7月11日(土)で、テーマは「葉っぱのハ・テ・ナ」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は7月5日(日)です。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→水生植物園→鳥の博物館で解散
- 観察日時／天気：2026年6月13日(土) 10:00～12:00 / 晴れ
- 参加人数 16名(大人10名、子ども6名)
- 市民スタッフ：8名(石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、**弘貴さと子**、古澤紀元、松田由美子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(脇水徳之)

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】キジ科：キジ／カモ科：カルガモ／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／カッコウ科：ホトトギス(声)／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ／チドリ科：コチドリ(声)／キツキ科：コゲラ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒバリ科：ヒバリ(声)／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／ヨシキリ科：オオヨシキリ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ

家禽や外来種：コジュケイ(キジ科、声)、ドバト(ハト科)、ガビチョウ(チメドリ科)

【その他】ヌマガエル、ウシガエル(声)、ミシシippアカミミガメ、カナヘビ、ヤマカガシ(死骸)、ササグモ、クサグモの仲間、コゲチャオニグモ、サツマノミダマシ、コガネグモ、コガタコガネグモ、ゴミグモ、ヤマトコマチグモ、カバキコマチグモ、キハダエビグモ、アリグモの仲間、ウスカワマイマイ、サルノコシカケの仲間、メダルチイの仲間、ウメノキゴケの仲間

【昆虫】カゲロウ目：ウスバカゲロウ／トンボ目：コシアキトンボ、シオカラトンボ／ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ／カマキリ目：カマキリの仲間の幼虫／ハサミムシ目：ヒゲジロハサミムシ／バッタ目：ショウリョウバッタ幼虫、ヒシバッタ、キンヒバリ、シバズ、マダラスズ、エンマコオロギ幼虫／カメムシ目：チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫、ナガメ、キマダラカメムシ、ホソハリカメムシ、アメンボ、ツツジグンバイ、アブラムシの仲間／チョウ目：アゲハ、ナガサキアゲハ、ヒメアカタテハ、イチモンジチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、カノコガ、アオイラガ、ワモンノメイガ、ヒメアトスカシバ、シモフリスズメ幼虫、セスジスズメ幼虫、タケカレハ幼虫、モンシロドクガ幼虫、リンゴツマキリアツバ幼虫、マイマイガ卵／ハエ目：ホソヒラタアブ、ハナアブの仲間、ヒメクロバエ、ニクバエの仲間、キンバエの仲間／コウチュウ目：ナミテントウ、ナナホシテントウ、ヨツボシテントウダマシ幼虫、カシワツツハムシ、クロウリハムシ、ヤノナミガタチビタムシ、コフキゾウムシ、ゾウムシの仲間、アオカミキリモドキ、コアオハナムグリ、マメコガネ、ヨツボシケシキスイ、オオヒラタシデムシ、アオバアリガタハネカクシ／ハチ目：セイヨウミツバチ、オオモンクロクモバチ、ジガバチの仲間、ハバチの仲間、アミメアリ

【草の花】タデ科：アレチギシギシ、ギシギシ／ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ／キンボウゲ科：ケキツネノボタン／アブラナ科：マメグンバイナズナ、コイヌガラシ／マメ科：コメツブツメクサ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ／カタバミ科：オッタチカタバミ／ブドウ科：ヤブガラシ／アカバナ科：コマツヨイグサ、アカバナユウゲショウ、オオバナミズキンバイ／セリ科：オオチドメ／ヒルガオ科：ヒルガオ／クマツヅラ科：クマツヅラ／シソ科：ホトケノザ／ナス科：ワルナスビ／ゴマノハグサ科：ウリクサ、トキワハゼ、オオイヌノフグリ／ハマウツボ科：ヤセウツボ／オオバコ科：オオバコ、ヘラオオバコ、ツボミオオバコ／キキョウ科：キキョウソウ／キク科：ハルジオン、チチコグサ、チチコグサモドキ、ウラジロチチコグサ、ブタナ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、オニタビラコ、オオアレチギク／アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、チリアヤメ／イグサ科：スズメノヤリ／ツユクサ科：ツユクサ／イネ科：コバンソウ、オヒシバ、ネズミムギ、シマスズメノヒエ／ラン科：ネジバナ

【木の花】ブナ科：クリ、マテバシイ／メギ科：ナンテン／バラ科：ノイバラの仲間／トウダイグサ科：アカメガシワ(雄)／キョウチクトウ科：キョウチクトウ



今回のテーマは「生き物の生存戦略」でした。てがたんコースで見られる植物や昆虫、鳥が、他の生き物とどう関わって生きているかに注目して観察しました。
てがたん当日は天気が良く、花をつける植物や、活性の上がった昆虫を多く観察できました。手賀沼の初夏を代表するオオヨシキリも、ヨシ原で盛んにさえずっていました。



今月の案内人
弘貴 さと子



①チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫。甘露を出してアリに守ってもらう。



②ワルナスビの花。根からのアレロパシ—成分で他の植物の生育を阻害する。

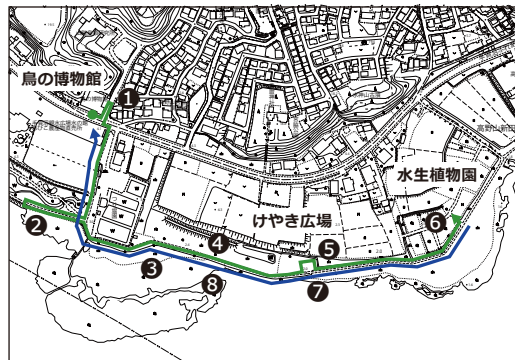


③ヨシ原の近くの樹にとまってさえずっていたウグイスのオス。



④ハナバチの仲間を捕食していたササグモ。葉の間を徘徊して獲物を探す。

歩いたルートと観察した生き物



⑤体長 6cm を超えるタケカレハの終齢幼虫。細かい毒針毛で身を守る。



⑥シロツメクサの蜜を吸うセイヨウミツバチ。後ろ足に花粉団子を付けている。



⑦オオスカシバの幼虫を捕らえたスズメ。虫は雛の成長に必要なタンパク源となる。



⑧遊歩道沿いで見かけたヌマガエル。背中に白い線がはっきり出た個体。

今月の鳥 植物の種を運ぶ鳥たち

果実を付ける植物は、果実ごと食べられることで、鳥に種を運んでもらう関係にあります。

熟した果実の赤色や黒色の皮は、幅広い色覚をもつ鳥の眼からは目立って見え、食糧が少なくなる冬の貴重な餌資源となります。

硬い殻で覆われた種は、鳥の体内での消化を防ぎ、鳥の移動先で糞とともに排泄され、糞の栄養をもとに効率よく発芽します(中西 1974)。

鳥による植物の種子散布は、鳥の移動能力を利用した、植物の共進化の例といえます。



冬にハリギリの実を食べるヒヨドリとツグミ



ヒレンジャクが粘性のある糞を出す様子